

シンポジウム実施計画書（案）

<p>日時 会場 対象</p>	<p>平成 27 年 12 月 5 日(土) 13 時 30 分～16 時 30 分 磐田市民文化会館 市民、市民団体、医療・介護・福祉関係者等 約 1,000 人</p>
<p>タイトル</p>	<p>みんなでつくる“磐田市の地域包括ケア”を考えるシンポジウム 「看取り～自分らしい生き方を共に考える～」</p>
<p>事業の 必要性及び目 的</p>	<p>団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となる 2025 年（平成 37 年）、磐田市では高齢者が現在より 5,000 人以上増え、47,533 人になると予測されている。このような背景の中、重度な要介護状態になっても住み慣れた磐田市で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの構築が必要とされている。地域包括ケアシステムの構築には、行政や医療・介護分野の連携のみでなく、住民の参画も重要である。</p> <p>地域包括ケアシステムは医療・介護・予防・住まい・生活支援など様々な視点からアプローチが必要だが、今回は、人生の最期である「死」について焦点をあて、展開する。</p> <p>平成 25 年 12 月に行った「磐田市高齢者等実態調査」によると、自分に介護が必要となった場合、家族に介護が必要となった場合ともに 6 割以上の方が家族の支援やサービスを利用しながら自宅での介護を望んでいる。自宅での介護の延長に「死」があると考えている。</p> <p>自分らしい暮らしを人生の最期まで成し遂げた結果、どのような死を迎えたいか、家族はどのように死を受け止めるか。また、自分らしい暮らし、最期を迎えるために、磐田市ではどのような取り組みや連携がされ、支援する体制があるのか市民に周知し、考えるきっかけとしたい。</p>
<p>主催者</p>	<p>磐田市、一般財団法人自治総合センター</p>
<p>後援</p>	<p>静岡新聞社・静岡放送 磐田市立総合病院、一般社団法人磐田市医師会、磐周歯科医師会、NPO 法人磐田薬剤師会、磐田市訪問看護ステーション連絡会、磐田市ケアマネ連絡会、磐田市地域包括支援センター、磐田市社会福祉協議会</p>
<p>協力</p>	<p>地域医療いわた ※磐田市を拠点とする地域医療支援活動市民団体 (平成 25 年 11 月設立)</p>

<p>シンポジウム の内容</p>	<p>13:00 開場 司会：グループ長 13:30 開会挨拶：市長 or 部長 13:35 講演：萬田緑平氏 「最期まで目一杯生きる」（内容 別添資料参照） 15:00 休憩 10分 15:10 パネルディスカッション 「命に寄り添う在宅医療と介護」 医療と介護の連携によって、住み慣れた磐田市で安心して生活でき、最期が迎えられることを感じてもらえる内容としたい。 コーディネーター：長谷川玲子（静岡新聞社紹介） パネリスト：磐田市立総合病院（田ノ井医師） 磐田市医師会（北原医師） 磐田市訪問看護ステーション連絡会 磐田市地域包括支援センター（竜洋センター長） 市民（「地域医療いわた」） 16:20 閉会挨拶：部長 or 課長 16:30 閉会</p>
<p>展示もしくは 配布 (ロビー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センターの活動内容の紹介 ・ 訪問看護ステーション等の活動内容の紹介 ・ 磐田市立総合病院の取り組みの紹介 ・ 地域医療いわたの取り組みの紹介 ・ 市の在宅医療介護連携についての取組み紹介
<p>事業実施による 効果</p>	<p>市民及び医療・介護・福祉関係者相互の理解を得ることにより、市民が安心して医療及び介護のサービスの提供を受けることができるようになる。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>「みんなでつくる“磐田市の地域包括ケア”を考えるシンポジウム」を共通テーマとし、継続して講演会等を開催することで2025年に向けての磐田市の地域包括ケアシステム構築について、市民、行政及び、医療・介護・福祉関係者相互が理解を深め、住み慣れた磐田市で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるまちづくりをする。</p>